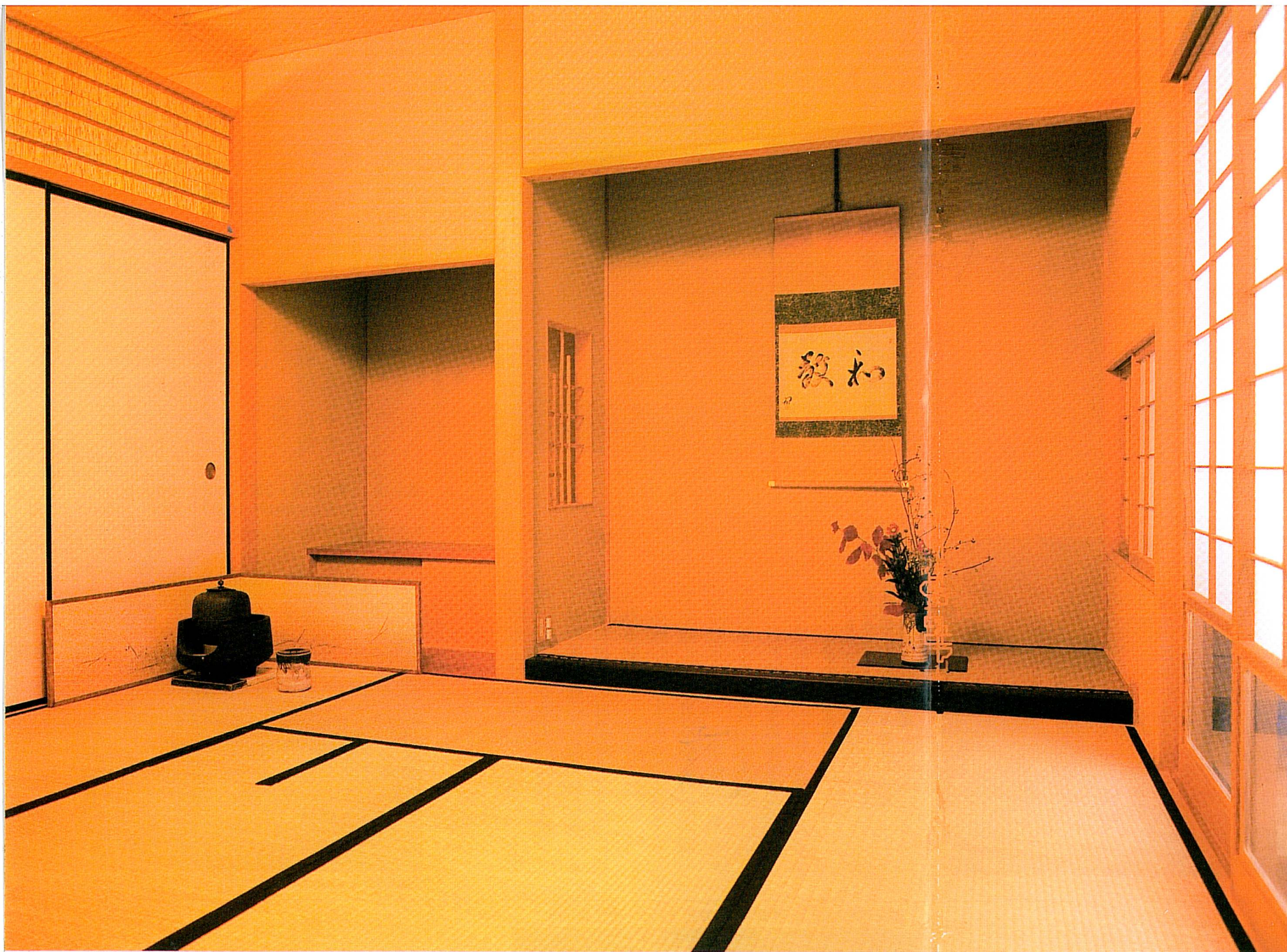


享栄高等学校茶室

(名古屋市瑞穂区)



享栄高等学校茶室

創立大正2年の歴史を持つ、享栄高等学校。

現在、普通科、商業科、機械科の3コースに分かれ、平成15年に全面改築された新校舎で、1,410人の生徒が学んでいる。

茶室は教室棟の3Fにあり、お茶を嗜んだ初代事務長・堀田昇祐さんが、生徒に日本文化を知って欲しいと、昭和20年代、当時は木造建てだった校舎内に建築。平成15年の新校舎改築の際、造りはそのままに、材だけを新しくして、いまの場所へ再建した。

室内は八畳の広間、六畳の待合、そして水屋。

校舎内のため躰口はないが、広間の障子の外の細い通路に、砂利と飛び石を配し、露地に見立てている。

広間は平天井で、床柱は杉。床框は柏の黒ツヤ消し。襖で仕切られた待合いととの間の欄間は、葦と竹があしらわれ茶室の風情を高めている。

「茶華道室」として、茶道部が週1回の稽古を行うほか、文化祭での呈茶や、一般へ向けて学校を開放する「土曜セミナー」で、お茶の講習会が行われる際にも使われている。

※掛軸…「和敬」堀田昇祐書

園享栄高等学校

名古屋市瑞穂区汐路町1-26

☎(052) 841-8151